



2025年3月14日

各 位

会 社 名 株式会社イタミアート
代表者名 代表取締役社長 伊丹 一晃
(コード番号：168A 東証グロース)
問合せ先 取締役管理本部長 一ノ瀬 達也
(TEL：086-805-4150)

2025年1月期通期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、2024年9月13日に公表いたしました2025年1月期業績予想と実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2025年1月期業績予想の修正（2024年2月1日～2025年1月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,554	180	165	114	82円28銭
今回修正予想 (B)	3,605	271	244	165	118円47銭
増減額 (B-A)	51	90	78	50	
増減率 (%)	1.4	50.2	47.3	44.0	
(ご参考) 前期実績 (2024年1月期)	3,112	192	221	153	145円90銭

2. 2025年1月期通期業績予想の差異の理由

2025年1月期の売上高につきましては、上期に続き下期も戦略的に卸販売事業の強化及びECサイトでの新規顧客の獲得に注力したことで、前回予想を上回る結果となりました。

具体的には、主要取引先との提携を強化したことや、インサイドセールス強化により新規顧客の獲得ができたことに加え、積極的なプロモーション活動やSEO対策によって来期以降のリピート売上が期待できるECサイトを利用する新規顧客も獲得することができたため、売上高は前回予想を上回る見込みとなりました。

加えて、主に以下の①～④などの理由により、営業利益・経常利益・当期純利益も前回予想を上回る見込みとなりました。

① 原価低減策が計画以上に奏功

海外からの原材料生地の仕入をドル取引から円取引に変更したこと及び生地の防炎加工を内製化したことなどにより、下期は製造原価の低減が計画通りに進捗しました。また、製造工程の改善によって製造ロスが大きく低減したことなどから、計画に比べ営業利益が約 21 百万円増加しました。

② 設備投資計画の見直し

投資計画を大きく見直したことにより、一部新型プリンタなどの設備導入計画が翌期に後ろ倒しになりました。その影響で、既存プリンタのメンテナンス費用等が発生しましたが、一方で、発生を見込んでいた減価償却が発生しなくなったことにより、計画に比べ営業利益が約 35 百万円増加しました。

③ 人員計画の見直し

業務フローの改善や生成 AI の活用、製造工程の改善や自動化などを進めたことで、当初計画より少ない人員で事業運営ができました。その結果、人件費の発生が抑えられたため、計画に比べ営業利益が約 28 百万円増加しました。

④ 送料の増加

計画に比べ売上高が好調に推移したことなどで、お客様へ商品をお届けする送料が増加し、販売費及び一般管理費が約 5 百万円増加しました。

これらのほか、将来の利益体制の構築のため、上期から引き続いて下期も製造工程の自動化に向けてシステム開発を進めたため、約 18 百万円（計画通り）の費用が発生しました。その一方で、電気代の削減など、費用の抑制にも積極的に取り組みました。

以 上